



夏休み後の対応例！

**新たな不登校を
増やさない**取組の充実

始業式前後のこの時期、**具体的な**対応の共通理解を教職員間で図り、**不登校を未然に防ぎましょう。**

学期始めの対応例

児童生徒の状態

対応例

夏季休業中に起きた友人関係のトラブルが原因で登校しづらい。

トラブルの早急な解消に努める。全教員で見守ることを本人へ伝える等により、本人へ安心感を与えた上で登校への働きかけを行う。

夏季休業中の生活のリズムの乱れから登校しづらい。

何をどのように改善するのかを具体的に保護者へ伝える。保護者と協力して状況の改善に努め、登校への働きかけを行う。

学習面で課題があり、宿題が終わっておらず登校しづらい。

家庭訪問や放課後を利用した学習指導等により、学習面での個別的な支援等を行い、登校への働きかけを行う。

集団生活にストレスを感じ、教室に入りづらい。

保健室や相談室、余裕教室等を活用し、学校での居場所を作り、登校への働きかけを行う。

週に1日又は2週間に1日程度の欠席がある場合の対応例

連続した欠席はないが、毎週欠席し、気がつけば30日近く欠席のある児童生徒はいませんか。

- 教員が「本人の状態（欠席日数等）を心配していること」を本人に伝え、登校に向けての目標を児童生徒と共に考える。その目標を保護者とも共有し、連携して目標達成に向けた働きかけを行う。
- 全職員の共通理解のもと積極的に児童生徒のよいところを伝え、自己肯定感を高め、登校意欲の向上を図る。保護者へも学校の様子を伝え、家庭でのプラスの声かけをお願いする。

2学期開始前に、「支援対象者リスト」を活用し、全職員で気になる児童生徒を共通理解しましょう！



NHKで放送された「怠け者って呼ばないで～知って欲しい起立性調節障害～」の再放送決定！ぜひ視聴し、今後の対応に活かしましょう。
(再放送日 8月31日(土)10:55～11:20)

